



Sun N1 System Manager 1.3.1 の 新機能



Sun Microsystems, Inc.
4150 Network Circle
Santa Clara, CA 95054
U.S.A.

Part No: 819-7323-10
2006年7月

本製品およびそれに関連する文書は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社の書面による事前の許可なく、本製品および関連する文書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company, Ltd. が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。フォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

U.S. Government Rights Commercial software. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

本製品に含まれる HG-MinchoL、HG-MinchoL-Sun、HG-PMinchoL-Sun、HG-GothicB、HG-GothicB-Sun、および HG-PGothicB-Sun は、株式会社リコーがリョービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。HeiseiMin-W3H は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun、Sun Microsystems、Solaris のロゴマーク、Java Coffee Cup のロゴマーク、docs.sun.com、Sun Fire、Sun Blade、および Java は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) の商標、登録商標もしくは、サービスマークです。

サンのロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャに基づくものです。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

Wnn は、京都大学、株式会社アステック、オムロン株式会社で共同開発されたソフトウェアです。

Wnn6 は、オムロン株式会社、オムロンソフトウェア株式会社で共同開発されたソフトウェアです。Copyright OMRON Co., Ltd. 1995-2000. All Rights Reserved. © Copyright OMRON SOFTWARE Co., Ltd. 1995-2002 All Rights Reserved. ©

「ATOK」は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。

「ATOK Server/ATOK12」は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、「ATOK Server/ATOK12」にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

「ATOK Server/ATOK12」に含まれる郵便番号辞書(7桁/5桁)は日本郵政公社が公開したデータを元に制作された物です(一部データの加工を行っています)。

「ATOK Server/ATOK12」に含まれるフェイスマーク辞書は、株式会社ビレッジセンターの許諾のもと、同社が発行する『インターネット・パソコン通信フェイスマークガイド』に添付のものを使用しています。

Unicode は、Unicode, Inc. の商標です。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは、OPEN LOOK のグラフィカル・ユーザインタフェースを実装するか、またはその他の方法で米国 Sun Microsystems 社との書面によるライセンス契約を遵守する、米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法(外為法)に定められる戦略物資等(貨物または役務)に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典: Sun N1 System Manager 1.3.1 What's New

Part No. 819-6530-10

目次

はじめに	9
1 N1 System Manager と Sun Blade 8000 モジュールシステム	13
N1 System Manager 1.3.1 の概要	13
Sun Blade 8000 モジュールシステムのハードウェア、ファームウェア、OS の要件	14
Sun Blade 8000 モジュールシステムの設定	16
▼ Sun Blade 8000 モジュールシステムのネットワークアドレスを設定する	16
2 Sun Blade 8000 モジュールシステムの検出、管理、および監視	19
Sun Blade 8000 モジュールシステム、および挿入されている Sun Blade X8400 サーバーモジュールの検出	19
▼ Sun Blade X8400 サーバーモジュールを検出する	20
重複する Sun Blade X8400 サーバーモジュールの検出	21
Sun Blade X8400 サーバーモジュールの ILOM ファームウェアのアップグレード	21
Sun Blade 8000 モジュールシステムの監視	22
▼ Sun Blade 8000 モジュールシステムのサーバーグループを表示する	22
▼ シャーシサーバーグループ内の Sun Blade X8400 サーバーモジュールを表示する	23
▼ Sun Blade X8400 サーバーモジュールの詳細を表示する	25
Sun Blade 8000 モジュールシステムの管理	27
シャーシグループの操作の制約	27
Sun Blade X8400 サーバーモジュールの ILOM Web GUI の起動	28
▼ ILOM Web GUI を起動する	28
Sun Blade X8400 サーバーモジュールの移動と交換	28
▼ 1 つの Sun Blade 8000 シャーシから別のシャーシに Sun Blade X8400 サーバーモジュールを移動する	28
▼ 一部埋まっている Sun Blade 8000 シャーシに Sun Blade X8400 サーバーモジュールを追加する	29
▼ Sun Blade X8400 サーバーモジュールを Sun Blade 8000 シャーシから取り出し、N1 System Manager から削除する	29

3	Sun Blade 8000 シャーシ内の Sun Blade X8400 サーバーモジュールのプロビジョニング ... 31	
	単一の Sun Blade X8400 サーバーモジュールへのオペレーティングシステムの配備 31	
	ネットワークインタフェースの対応表 32	
	▼ サポートされている Solaris OS または Linux ディストリビューションを Sun Blade X8400 サーバーモジュールにプロビジョニングする 33	
	Sun Blade X8400 サーバーモジュールへの Microsoft Windows のプロビジョニング 34	
	▼ Sun Blade X8400 サーバーモジュールに Microsoft Windows をプロビジョニングする 35	
4	N1 System Manager のその他の変更点 37	
	サポートされているハードウェアとオペレーティングシステム 37	
	管理サーバーの要件 37	
	管理可能なサーバーの要件 39	
	N1 System Manager 1.3 からのアップグレード 42	
	N1 System Manager 1.3 のマニュアルの変更点 43	
	Solaris 10 OS の N1 Grid Engine ホストへのプロビジョニング 43	
	▼ N1 Grid Engine ホストに Solaris 10 OS をプロビジョニングする 43	
	オンラインヘルプの更新と訂正 43	
	索引 45	

表目次

表 1-1	Sun Blade X8400 サーバーモジュールのハードウェアと OS の要件	14
表 1-2	Sun Blade 8000 モジュールシステムのファームウェアの要件	15
表 1-3	Sun Blade 8000 モジュールシステムのデフォルトの資格	15
表 3-1	N1 System Manager で使用できる物理ネットワークデバイス名	32
表 3-2	N1 System Manager で使用できる論理デバイス名	32
表 4-1	管理サーバーのディスク容量と RAM の要件	38
表 4-2	SPARC の管理サーバーでサポートされているハードウェアとオペレーティングシステム	38
表 4-3	X86 と X64 の管理サーバーでサポートされているハードウェアとオペレーティングシステム	38
表 4-4	管理可能なサーバーのディスク容量と RAM の要件	40
表 4-5	SPARC の管理可能なサーバーでサポートされているハードウェアとオペレーティングシステム	40
表 4-6	X86 と X64 の管理可能なサーバーでサポートされているハードウェアとオペレーティングシステム	40

目次

図 2-1	シャードサーバーグループの表示	23
図 2-2	シャードサーバーグループ内のサーバーの表示	24
図 2-3	Sun Blade X8400 サーバーモジュールのブレードの詳細の表示	25
図 2-4	ネットワークブートデバイス	26

はじめに

『Sun N1 System Manager 1.3.1 の新機能』では、N1 System Manager の理解と管理に役立つように、このリリースの Sun N1™ System Manager でのすべての変更点について説明します。

N1 System Manager ソフトウェアの全機能については、N1 System Manager 1.3 のマニュアルセットで説明しています。このマニュアルでは、このバージョンで Sun Blade 8000 モジュールシステムをサポートするために追加された拡張機能について説明します。また、Sun Blade 8000 モジュールシステムのサポート以外の N1 System Manager の拡張機能についても説明します。

対象読者

このマニュアルは、Sun N1 System Manager ソフトウェアが動作するサーバーの管理を担当するシステム管理者またはネットワーク管理者を対象にしています。このマニュアルは、読者に次の基礎的な知識があるものと想定しています。

- Solaris™ オペレーティングシステム、Red Hat Linux、Microsoft Windows、および各オペレーティングシステムが提供するネットワーク管理ツールに関する知識
- Sun Microsystems、Cisco、Foundry、Extreme などのさまざまなベンダーのネットワーク機器およびネットワークデバイスに関する知識
- ネットワークデバイスの相互接続およびケーブル接続に関する知識
- SNMP (Simple Network Management Protocol) に関する知識。N1 System Manager の一部の要素は SNMP に基づくソフトウェアを使用します。

お読みになる前に

このマニュアルは、N1 System Manager 1.3 のマニュアルセットに含まれます。次のマニュアルをお読みください。

- 『Sun N1 System Manager 1.3 の概要』
- 『Sun N1 System Manager 1.3 サイト計画の手引き』
- 『Sun N1 System Manager 1.3 インストールおよび構成ガイド』

マニュアルの構成

- 第1章では、Sun N1 System Manager での Sun Blade 8000 モジュールシステムのサポートについて説明し、ハードウェアとソフトウェアの要件を示し、N1 System Manager で管理できるように Sun Blade 8000 モジュールシステムを設定する手順を示します。
- 第2章では、Sun Blade 8000 シャーシと Sun Blade X8400 サーバーモジュールを含む Sun Blade 8000 モジュールシステムを検出、管理、および監視する方法について説明します。
- 第3章では、Sun Blade 8000 シャーシ内の Sun Blade X8400 サーバーモジュールをプロビジョニングする方法について説明します。
- 第4章では、Sun Blade 8000 モジュールシステムのサポートに関連する機能の変更点を除く、製品のこのリリースでの変更点と拡張機能について説明します。この章では、製品のこのリリースのオンラインヘルプで変更されなかった点についても説明します。

関連情報

次のマニュアルには、このバージョンの N1 System Manager の使用方法に関する情報が記載されています。

- 『Sun N1 System Manager 1.3.1 Troubleshooting Guide』
- 『Sun N1 System Manager 1.3.1 ご使用にあたって』

N1 System Manager 1.3 のマニュアルセットも参照してください。

- 『Sun N1 System Manager 1.3 の概要』
- 『Sun N1 System Manager 1.3 サイト計画の手引き』
- 『Sun N1 System Manager 1.3 インストールおよび構成ガイド』
- 『Sun N1 System Manager 1.3 検出および管理マニュアル』
- 『Sun N1 System Manager 1.3 オペレーティングシステムプロビジョニングガイド』
- 『Sun N1 System Manager 1.3 コマンド行リファレンスマニュアル』
- 『Sun N1 System Manager 1.3 Grid Engine プロビジョニングおよび監視マニュアル』

関連する Sun 以外の Web サイトの参照

このマニュアルでは、追加の関連情報を提供するサードパーティーの URL が参考として示されています。

注-Sun は、このマニュアルに記載されているサードパーティー Web サイトの利用について責任を負いません。こうしたサイトやリソース上またはこれらを通じて利用できるコンテンツ、広告、製品、その他の資料について Sun は推奨しているわけではなく、Sun はいかなる責任も負いません。こうしたサイトやリソース上で、またはこれらを経由して利用できるコンテンツ、製品、サービスを利用または信頼したことに伴って実際に発生した (あるいは発生したと主張される) いかなる損害や損失についても、Sun は一切の責任を負いません。

マニュアル、サポート、およびトレーニング

Sun の Web サイトでは、以下の追加情報を提供しています。

- マニュアル (<http://jp.sun.com/documentation/>)
- サポート (<http://jp.sun.com/support/>)
- トレーニング (<http://jp.sun.com/training/>)

表記上の規則

このマニュアルでは、次のような字体や記号を特別な意味を持つものとして使用しません。

表 P-1 表記上の規則

字体または記号	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例を示します。	.login ファイルを編集します。 ls -a を使用してすべてのファイルを表示します。 machine_name% you have mail.
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して示します。	machine_name% su Password:
<i>AaBbCc123</i>	変数を示します。実際に使用する特定の名称または値で置き換えます。	ファイルを削除するには、rm filename と入力します。
『 』	参照する書名を示します。	『コードマネージャ・ユーザーズガイド』を参照してください。

表 P-1 表記上の規則 (続き)

字体または記号	意味	例
「」	参照する章、節、ボタンやメニュー名、強調する単語を示します。	第5章「衝突の回避」を参照してください。 この操作ができるのは、「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ幅を超える場合に、継続を示します。	sun% grep '^#define \ XV_VERSION_STRING '

コマンド例のシェルプロンプト

以下の表に、Cシェル、Bourneシェル、およびKornシェルのデフォルトのUNIX®システムプロンプト、およびスーパーユーザーのプロンプトを紹介します。

表 P-2 シェルプロンプト

シェル	プロンプト
Cシェル	machine_name%
Cシェルのスーパーユーザー	machine_name#
BourneシェルおよびKornシェル	\$
BourneシェルおよびKornシェルのスーパーユーザー	#

N1 System Manager と Sun Blade 8000 モジュールシステム

Sun N1 System Manager 1.3.1 には、製品の旧バージョンの全機能に加えて、Sun Blade 8000 モジュールシステムのハードウェアのサポートが含まれています。

この章では、N1 System Manager で Sun Blade 8000 モジュールシステムのハードウェアを定義する方法について説明し、N1 System Manager で管理できるように Sun Blade 8000 モジュールシステムを設定する手順を示します。

N1 System Manager では、シャーシ内の Sun Blade X8400 サーバーモジュールの検出と管理はできますが、Sun Blade 8000 シャーシ自体の検出と管理はできません。

N1 System Manager 1.3.1 の概要

このバージョンの N1 System Manager ソフトウェアでは、Sun Blade 8000 モジュールシステムのハードウェアがサポートされています。

Sun Blade 8000 のハードウェアは、N1 System Manager で次のように定義します。

Sun Blade 8000 シャーシ

1 つまたは複数の Sun Blade X8400 サーバーモジュールを挿入して Sun Blade 8000 モジュールシステムとなるサポートシャーシ。このシャーシには、シャーシ監視モジュール (CMM) というシステムコントローラ (SC) も含まれます。CMM には、DB9 コンソールコネクタと IP 構成用の Ethernet ポートがあります。

Sun Blade X8400 サーバーモジュール

このモジュールは、Sun Blade 8000 シャーシに挿入する 4 ソケットの Sun Blade X8400 サーバーモジュールです。各 Sun Blade X8400 サーバーモジュールには、サービスプロセッサ (SP)、USB ポートが 2 つ、VGA ポートが 1 つ、コンソールアクセス用 DB9 コネクタが 1 つあります。

Sun Blade 8000 モジュールシステム

このシステムは1つまたは複数の Sun Blade X8400 サーバーモジュールが挿入された Sun Blade 8000 シャーシです。単一のシャーシ内のサーバーモジュールをブレードといい、N1 System Manager ソフトウェアでは、N1 System Manager の論理グループの概念と同様に、個別のサーバーグループとして定義します。詳細は、『Sun N1 System Manager 1.3 検出および管理マニュアル』の「グループの作成と管理対象サーバーのグループへの追加」を参照してください。Sun Blade 8000 モジュールシステム内で検出された Sun Blade X8400 サーバーモジュールのグループは、シャーシサーバーグループともいいます。

Sun Blade 8000 モジュールシステムのハードウェア、ファームウェア、OSの要件

次の表に、N1 System Manager で Sun Blade 8000 モジュールシステムに対してサポートされるハードウェアの詳細、オペレーティングシステム、ファームウェア、および資格を示します。

注 - Sun Blade X8400 サーバーモジュールを N1 System Manager の管理サーバーとして使用しないでください。管理サーバーには、37 ページの「管理サーバーの要件」に示す、いずれかのサポートされるサーバーを使用してください。

表 1-1 Sun Blade X8400 サーバーモジュールのハードウェアと OS の要件

要件の種類	推奨
RAM	最小 512M バイト、1G バイトを推奨
ディスク空間	12G バイト以上

表 1-1 Sun Blade X8400 サーバーモジュールのハードウェアと OS の要件 (続き)

要件の種類	推奨
プロビジョニング可能なオペレーティングシステム	Solaris x64 Version 10 Update 2、 64 ビット Red Hat Enterprise Linux 4.0 AS Update 3、 64 ビット SUSE Linux Enterprise Server 9 SP3、 64 ビット Windows 2003 SE、2003 EE、SP1 32 ビット Windows 2003 SE、2003 EE 64 ビット

表 1-2 Sun Blade 8000 モジュールシステムのファームウェアの要件

シャーシコンポーネント	管理ポート	最小
Sun Blade 8000 シャーシの CMM	ILOM	ファームウェア 1.1 ファームウェア、ビルド 11149
Sun Blade X8400 サーバーモジュールの SP	ILOM	ファームウェア 1.1 ファームウェア、ビルド 11149
Sun Blade X8400 サーバーモジュール BIOS		0ABHL048

注 - N1 System Manager では、Sun Blade X8400 サーバーモジュールのファームウェアをアップグレードできます。このリリースの N1 System Manager では、Sun Blade 8000 シャーシのファームウェアはアップグレードできません。

Sun Blade 8000 シャーシの CMM と Sun Blade X8400 サーバーモジュールの SP は、ファームウェアのレベルが同じである必要があります。詳細は、ハードウェアのマニュアルを参照してください。

表 1-3 Sun Blade 8000 モジュールシステムのデフォルトの資格

管理ポートの種類	SSH ログイン	SSH パスワード	IPMI ログイン	IPMI パスワード
ILOM	root	changeme	root	changeme

注 - Sun Blade X8400 サーバーモジュールの検出中にほかの資格が指定されていない場合、N1 System Manager では、表 1-3 に示す、工場出荷時の資格がデフォルトの資格として使用されます。

Sun Blade 8000 モジュールシステムの設定

Sun Blade 8000 シャーシに挿入されている Sun Blade X8400 サーバーモジュールを N1 System Manager で検出するには、まず Sun Blade 8000 シャーシの CMM と Sun Blade 8000 シャーシ内の各 Sun Blade X8400 サーバーモジュールのサービスプロセッサに IP アドレス、ゲートウェイアドレス、およびネットマスクを割り当てます。

注 - 正常に検出するには、各 Sun Blade 8000 シャーシに Sun Blade X8400 サーバーモジュールのブレードが 1 つ以上挿入されている必要があります。

▼ Sun Blade 8000 モジュールシステムのネットワークアドレスを設定する

- 1 設定する Sun Blade 8000 シャーシまたは Sun Blade X8400 サーバーモジュールの DB9 シリアルポートに端末を接続します。

- 2 コマンド環境を用意します。

工場出荷時の CMM 資格でログインします。工場出荷時の資格については、表 1-3 を参照してください。

- 3 Sun Blade 8000 シャーシ内の CMM の SC の IP アドレス、ゲートウェイアドレス、およびネットマスクを設定します。

次のコマンドを入力します。ここで *IP-address* は、Sun Blade 8000 シャーシ内の CMM の SC の IP アドレス、*gateway-address* はゲートウェイ IP アドレス、*netmask* はネットマスクです。

```
N1-ok> set /CMM/network/CMM0 pendingipaddress = IP-address
```

```
N1-ok> set /CMM/network/CMM0 pendingipgateway = gateway-address
```

```
N1-ok> set /CMM/network/CMM0 pendingipnetmask = netmask
```

```
N1-ok> set /CMM/network/CMM0 commitpending=true
```

- 4 これらのアドレスのベンチ設定を確認します。

```
N1-ok> show /CMM/network/CMM0
```

- 5 シャーシ内の各 Sun Blade X8400 サーバーモジュールの SP の IP アドレス、ゲートウェイアドレス、およびネットマスクを設定します。

次のコマンドを入力します。ここで *IP-address* は SP の IP アドレス、*gateway-address* はゲートウェイ IP アドレス、*static* は静的 IP アドレス、*blade-number* はシャーシ内の Sun Blade X8400 サーバーモジュールに関連付けられている番号、*netmask* はネットマスクです。

```
N1-ok> set /CH/BLblade-number/SP/network pendingipaddress = IP-address
```

```
N1-ok> set /CH/BLblade-number/SP/network pendingipgateway = gateway-address
```

```
N1-ok> set /CH/BLblade-number/SP/network pendingipnetmask = netmask
```

```
N1-ok> set /CH/BLblade-number/SP/network pendingipdiscovery = static
```

```
N1-ok> set /CH/BLblade-number/SP/network commitpending=true
```

たとえば、Sun Blade X8400 サーバーモジュールの *blade-number* が 0 の場合は、次のコマンドを入力して IP アドレスを設定します。

```
N1-ok> set /CH/BL0/SP/network pendingipaddress = IP-address
```

- 6 これらのアドレスのベンチ設定を確認します。

```
N1-ok> show /CH/BLblade-number/SP/network
```

たとえば、Sun Blade X8400 サーバーモジュールの *blade-number* が 0 の場合は、次のコマンドを入力して、これらのアドレスのベンチ設定を確認します。

```
N1-ok> show /CH/BL0/SP/network
```


Sun Blade 8000 モジュールシステムの検出、管理、および監視

この章では、Sun Blade 8000 モジュールシステム、および Sun Blade 8000 シャーシに挿入されている Sun Blade X8400 サーバーモジュールを検出、管理、および監視する手順について説明します。

Sun Blade 8000 モジュールシステム、および挿入されている Sun Blade X8400 サーバーモジュールの検出

N1 System Manager では、ほかのサーバーと同じ方法で Sun Blade X8400 サーバーモジュールが検出されます。挿入されている Sun Blade X8400 サーバーモジュールは、Sun Blade X8400 サーバーモジュールの SP の IP アドレスを含むアドレス範囲を指定して検出するか、Sun Blade X8400 サーバーモジュールにインストールされているオペレーティングシステムで検出します。

N1 System Manager では、SP または SC の IP アドレスで Sun Blade 8000 シャーシを検出できません。Sun Blade 8000 シャーシは、N1 System Manager を使用してシャーシ内に挿入されている Sun Blade X8400 サーバーモジュールを検出するときに検出されます。

検出方法については、『Sun N1 System Manager 1.3 検出および管理マニュアル』の第 4 章「管理可能なサーバーの検出」を参照してください。

注 - Sun Blade 8000 シャーシ、および挿入されている Sun Blade X8400 サーバーモジュールに対して使用できる N1 System Manager の管理機能は、検出方法によって異なります。これらの機能は、『Sun N1 System Manager 1.3 検出および管理マニュアル』の「検出に基づく管理対象サーバーの機能」で説明している Sun Fire™ X4000 サーバーの管理機能と同じです。

挿入されている Sun Blade X8400 サーバーモジュールが、SP ベースの検出で検出された場合は、検出プロセスによってシャーシグループとよばれる特殊なグループに入れられます。グループ名は `cmm-chassisID` の形式で、ここで `chassisID` は、検出された各 Sun Blade X8400 サーバーモジュールを含む Sun Blade 8000 シャーシのハードウェア識別子です。

シャーシグループは、N1 System Manager でサーバーのユーザー定義グループと同じように表示されます。サーバーのグループの定義と管理については、『Sun N1 System Manager 1.3 検出および管理マニュアル』の第5章「サーバーおよびサーバーグループの管理」を参照してください。シャーシグループ名の cmm- 接頭辞は Sun Blade 8000 シャーシ用に予約されています。この接頭辞によって、各シャーシと、シャーシに挿入されている Sun Blade X8400 サーバーモジュールを簡単に区別できます。また、検出プロセスでは、PXE ブートデバイス、UUID など、各 Sun Blade X8400 サーバーモジュールに関する追加サーバー情報も取得されます。

OS ベースの検出で Sun Blade X8400 サーバーモジュールが検出された場合、検出された Sun Blade X8400 サーバーモジュールはシャーシサーバーグループのコンテキストに表示されません。

検出機能では、検出されたブレードを既存の論理グループに入れることもできます。この手順を次に示します。

▼ Sun Blade X8400 サーバーモジュールを検出する

- 1 **N1 System Manager** ブラウザインタフェースにログインします。

『Sun N1 System Manager 1.3 検出および管理マニュアル』の第1章「N1 System Manager へのアクセス」を参照してください。

- 2 既存の論理サーバーグループを選択するか、新しい論理サーバーグループを作成して選択します。

グループを作成する手順については、『Sun N1 System Manager 1.3 検出および管理マニュアル』の「管理対象サーバーのグループを作成する」を参照してください。

- 3 **SP** ベースの検出を使用して、**Sun Blade X8400** サーバーモジュールの **SP** の **IP** アドレスの範囲を指定します。

SP を使用して Sun Blade X8400 サーバーモジュールを検出するには、`discover` コマンドを使用します。

```
N1-ok> discover IP,IP-IP,subnet/mask format ip [group group]
[ipmi username/password]
[ssh username/password]
```

IP アドレス、IP アドレス範囲、および IP サブネットは、コンマ区切りで入力することができます。IP アドレス範囲には重複があってもかまいません。

注 - 検出対象の IP アドレス範囲を指定する場合は、その IP アドレス範囲に N1 System Manager 管理サーバーの IP アドレスが含まれないことを確認してください。

セキュリティ資格として、IPMI、SNMP (Simple Network Management Protocol)、SSH、および Telnet が選択できます。資格が指定されない場合は、工場出荷時のデフォルトが使用されます。デフォルトのアカウントについては、『Sun N1 System Manager 1.3 サイト計画の手引き』を参照してください。

discover コマンドの構文については、『Sun N1 System Manager 1.3 コマンド行リファレンスマニュアル』の「discover」を参照してください。

検出ジョブが正常に終了すると、管理対象サーバーはその管理名で識別されます。SP ベースの検出で Sun Blade X8400 サーバーモジュールが検出された場合は、管理名は最初はその管理 IP アドレスに設定されます。検出されたサーバーの名前はいつでも任意の名前に変更できます。変更するには、set server コマンドを使用します。詳細は、『Sun N1 System Manager 1.3 コマンド行リファレンスマニュアル』の「set server」を参照してください。set server コマンドを使用して Sun Blade X8400 サーバーモジュールの名前を設定すると、Sun Blade X8400 サーバーモジュールを別のシャーシに移動しても名前は変わりません。

詳細は、『Sun N1 System Manager 1.3 検出および管理マニュアル』の「SP ベースの検出」を参照してください。

検出後、検出された各 Sun Blade X8400 サーバーモジュールは、選択した論理サーバーグループとシャーシサーバーグループに入れます。検出された Sun Blade X8400 サーバーモジュールは複数の論理サーバーグループに追加してさまざまなグループレベルの作業を行い、管理機能を強化できます。

重複する Sun Blade X8400 サーバーモジュールの検出

特定の条件下では、N1 System Manager で同じサーバーが複数回検出され、サーバーが重複する可能性があります。詳細は、『Sun N1 System Manager 1.3 検出および管理マニュアル』の「重複するサーバーの検出と特定」を参照してください。

Sun Blade 8000 モジュールシステムのサーバーを手動で検出するときに正しい guid を指定しなかった場合、手動で検出された Sun Blade 8000 モジュールシステムに対して detectduplicates コマンドは機能しません。したがって、Sun Blade X8400 サーバーモジュールを手動で検出するときに guid を手動検出の XML ファイルで指定する場合は、正しい guid を指定してください。

Sun Blade X8400 サーバーモジュールの ILOM ファームウェアのアップグレード

Sun Blade X8400 サーバーモジュールの ILOM ファームウェアを N1 System Manager 環境でアップグレードできます。

CMM にインストールされている ILOM ファームウェアのバージョンは、Sun Blade X8400 サーバーモジュールのサービスプロセッサにインストールされている ILOM ファームウェアのバージョンと同じである必要があります。Sun Blade X8400 サーバーモジュールのファームウェアをアップグレードするには、N1 System Manager を使用します。ファームウェアのアップグレードについては、『Sun N1 System Manager 1.3 オペレーティングシ

『システムプロビジョニングガイド』の第6章「ファームウェア SP、BIOS、およびALOM アップデートの管理」を参照してください。

Sun Blade 8000 シャーシのファームウェアの変更については、Sun Blade 8000 モジュールシステムのマニュアルを参照してください。

注 - N1 System Manager では、Sun Blade 8000 シャーシのファームウェアはアップグレードできません。N1 System Manager では、Sun Blade X8400 サーバーモジュールのファームウェアはアップグレードできます。

Sun Blade 8000 モジュールシステムの監視

この節では、Sun Blade 8000 モジュールシステムの監視について説明します。この節に示す手順に従うには、その前に、Sun Blade 8000 モジュールシステム、および挿入されている Sun Blade X8400 サーバーモジュールが検出されている必要があります。

▼ Sun Blade 8000 モジュールシステムのサーバーグループを表示する

- 1 N1 System Manager のコマンド行環境にログインします。

『Sun N1 System Manager 1.3 検出および管理マニュアル』の「コマンド行を使用した N1 System Manager へのアクセス」を参照してください。

- 2 Sun Blade 8000 モジュールシステムのサーバーグループを表示するには、`show group` コマンドを使用します。

```
N1-ok> show group
```

N1 System Manager に登録されている全サーバーグループの一覧が表示されます。ブラウザインタフェースの「グループ別のサーバー」パネルにもサーバーグループの一覧が表示されます。Sun Blade X8400 サーバーモジュールから構成されるサーバーグループは名前が `cmm-chassisID` の形式なので簡単に区別できます。

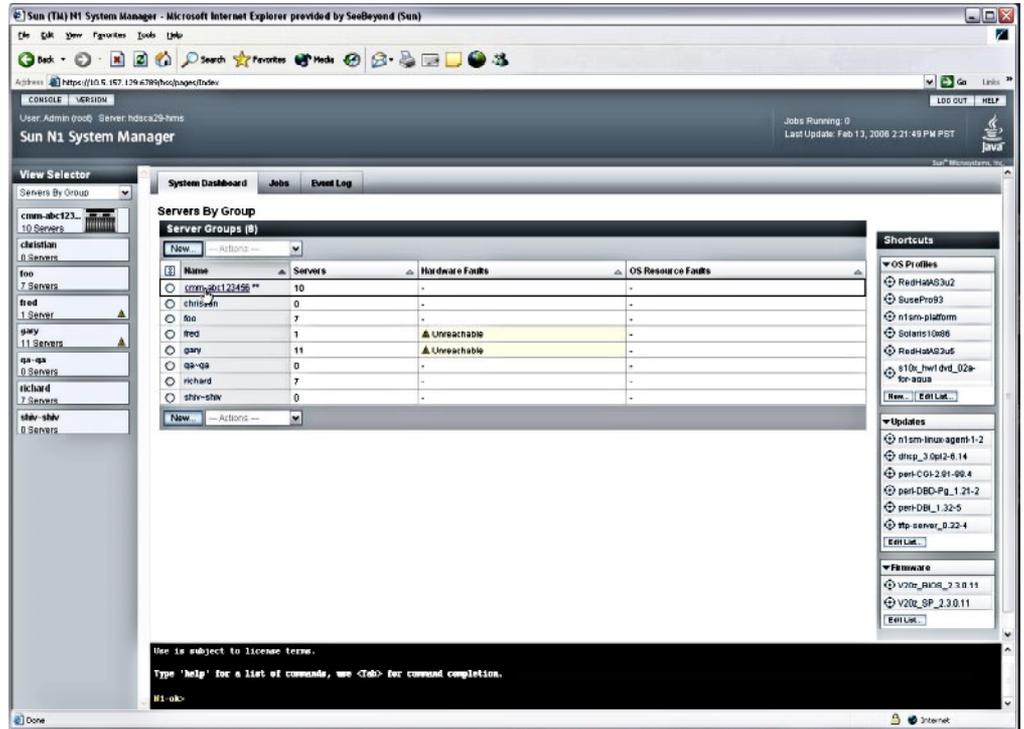


図 2-1 シャーシサーバーグループの表示

シャーシサーバーグループは、N1 System Manager 1.3 の論理グループと同じように機能します。N1 System Manager 1.3 の監視対象のサーバーグループの動作と管理については、『Sun N1 System Manager 1.3 検出および管理マニュアル』の第 5 章「サーバーおよびサーバーグループの管理」を参照してください。

Sun Blade X8400 サーバーモジュールで障害が発生したかどうかを確認するには、このあとに示す手順に従ってシャーシサーバーグループ内の Sun Blade X8400 サーバーモジュールを確認します。次に、25 ページの「Sun Blade X8400 サーバーモジュールの詳細を表示する」の手順に従って Sun Blade X8400 サーバーモジュールの詳細を表示します。

参照 『Sun N1 System Manager 1.3 検出および管理マニュアル』の「管理対象サーバーとグループの一覧表示」

▼ シャーシサーバーグループ内の Sun Blade X8400 サーバーモジュールを表示する

Sun Blade 8000 シャーシ自体はグループに属しません。Sun Blade X8400 サーバーモジュールだけをグループ分けできます。

- 1 N1 System Manager のコマンド行環境にログインします。
- 2 シャーシサーバーグループ内の Sun Blade X8400 サーバーモジュールを表示するには、次のコマンドを入力します。

```
N1-ok> show group cmm-groupID
```

ここで `cmm-groupID` は、Sun Blade 8000 シャーシ、および挿入されている Sun Blade X8400 サーバーモジュールを含むグループの名前です。

グループ内の全 Sun Blade X8400 サーバーモジュールの一覧が表示されます。ブラウザインタフェースの「グループ別のサーバー」パネルにもサーバーグループの一覧が表示されます。

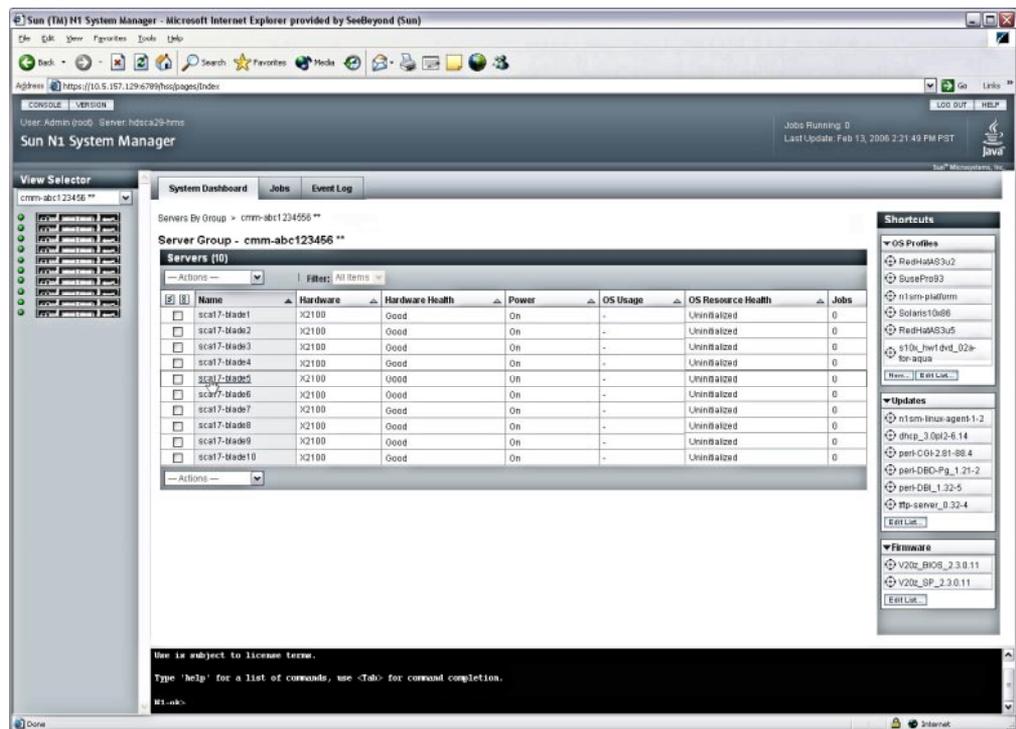


図 2-2 シャーシサーバーグループ内のサーバーの表示

参照 『Sun N1 System Manager 1.3 検出および管理マニュアル』の「管理対象サーバーとグループの一覧表示」

▼ Sun Blade X8400 サーバーモジュールの詳細を表示する

- 1 N1 System Manager のコマンド行環境にログインします。
- 2 Sun Blade X8400 サーバーモジュールの詳細を表示するには、次のコマンドを入力します。

```
N1-ok> show server serverID
```

指定した Sun Blade X8400 サーバーモジュールの詳細情報が表示されます。選択した Sun Blade X8400 サーバーモジュールに関する情報は、ブラウザインタフェースの「サーバーの詳細」ページにも表示されます。

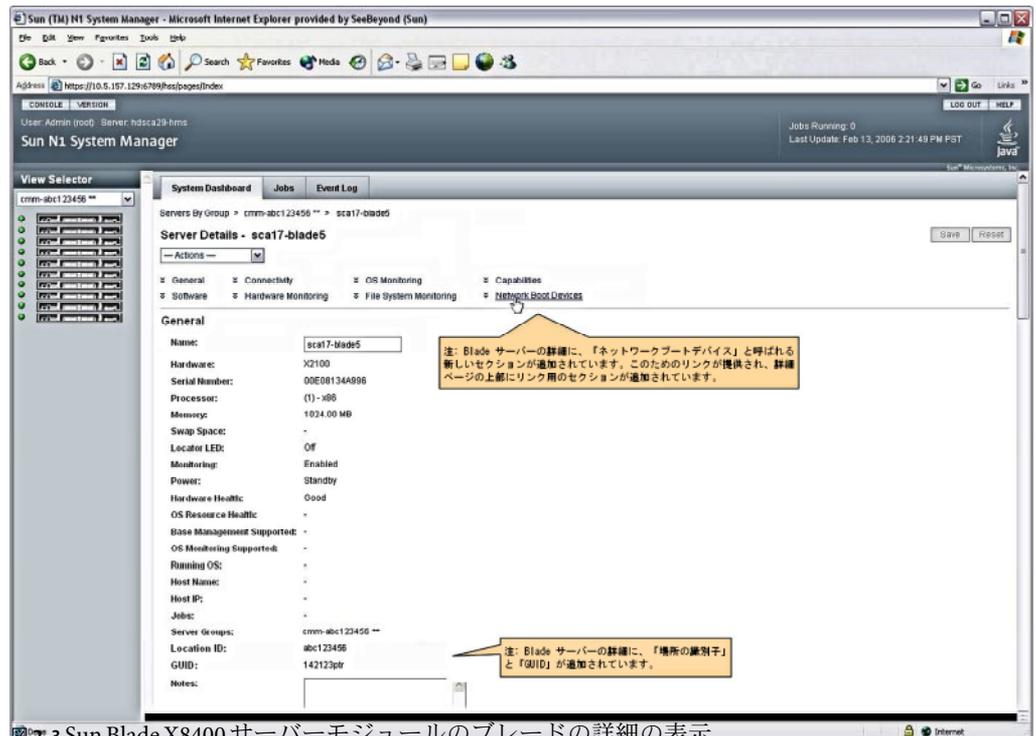


図 2-3 Sun Blade X8400 サーバーモジュールのブレードの詳細の表示

「サーバーの詳細」ページには、前の図に示すように、ブレードの詳細情報だけが表示されます。

- ネットワークブートデバイス—「ネットワークブートデバイス」を選択すると、次の図に示す「ネットワークブートデバイス」ページが表示されます。「ネットワークブートデバイス」ページには、ブートターゲット識別子の一覧が表示されます。ブートターゲット識別子は、その Sun Blade X8400 サーバーモジュールから使用できる PXE 対応の Ethernet ポートを示します。これらのポートは、シャーシの背面の入出力モジュールにあります。各ブートターゲット識別子は Sun Blade X8400 サーバーモジュール

ル内で一意です。「ネットワークブートデバイス」ページには、Sun Blade 8000 シャーシでの Sun Blade X8400 サーバーモジュールの物理的な位置も表示されます。ネットワークブートデバイスは、PCIバスの検索順序で表示されます。ギガビット Ethernet の入出力モジュールで完全に埋まっている Sun Blade 8000 シャーシでは、Sun Blade X8400 サーバーモジュールあたり最大 12 個のネットワークブートデバイスがサポートされます。

- 場所の識別子 — Sun Blade X8400 サーバーモジュールが挿入されている Sun Blade 8000 シャーシの識別子です。場所の識別子は、Sun Blade X8400 サーバーモジュールが属するシャシグループの *chassisID* 部分と同じです。この識別子は、Sun Blade X8400 サーバーモジュールを別の Sun Blade 8000 シャーシに移動すると変更されます。
- **GUID** — Sun Blade X8400 サーバーモジュールに割り当てられた大域的な一意の識別子です。guid は静的であり、Sun Blade X8400 サーバーモジュールを別の Sun Blade 8000 シャーシに移動しても変わりません。

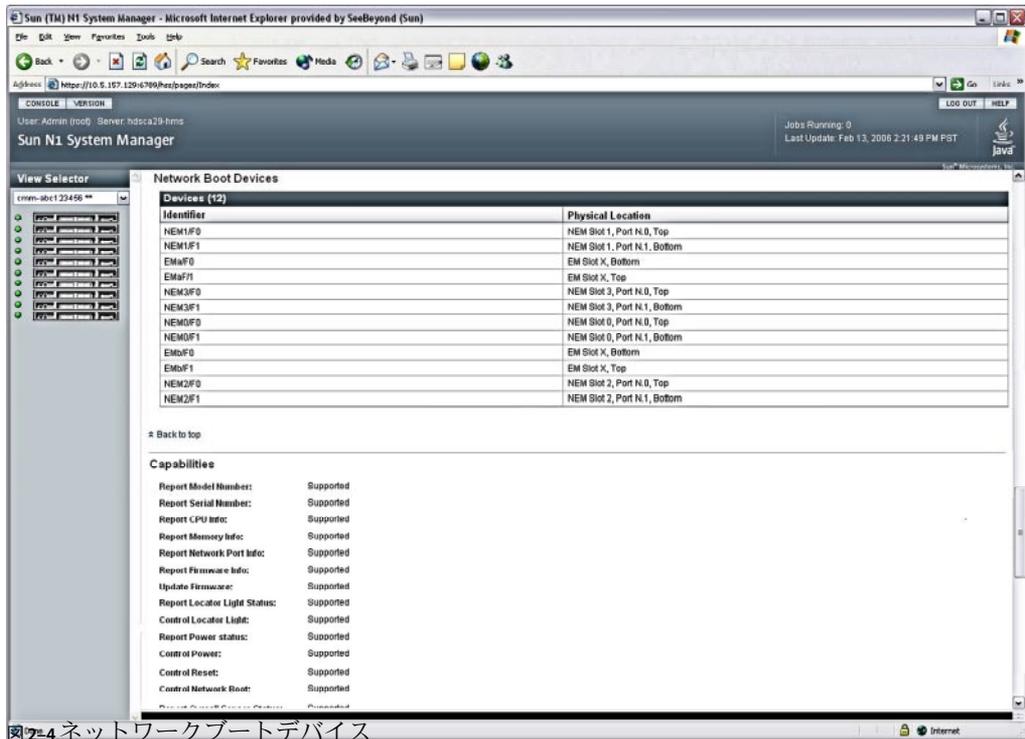


図 7-4 ネットワークブートデバイス

「ネットワークブートデバイス」ページに表示される場所情報は、B8000 シャーシの背面からのものです。次の値が表示されます。

- Network Expansion Module (NEM) — NEM ポート [N.0, N.1] はシャーシの NEM ポートのラベルに対応します。N は Sun Blade X8400 サーバーモジュールの番号で、0～9 の範囲内です。詳細は、Sun Blade 8000 モジュールシステムのマニュアルを参照してください。NEM ポートは 0～9 ではなく、0～3 の範囲内です。ポート番号は NEM の Ethernet ポートに対応します。

NEM スロット [0,1,2,3] は、シャーシでの NEM の位置を一番上 (3) から一番下 (0) の順序で示します。

- PCI Express Module (EM) — EM スロット EMN.a と EMN.b は、シャーシの EM ラベルに対応します。N は Sun Blade X8400 サーバーモジュールの番号で、0～9 の範囲内です。詳細は、Sun Blade 8000 モジュールシステムのマニュアルを参照してください。

参照 『Sun N1 System Manager 1.3 検出および管理マニュアル』の「管理対象サーバーの詳細とサーバーグループに属するサーバーの表示」

Sun Blade 8000 モジュールシステムの管理

N1 System Manager では、Sun Blade 8000 シャーシ内の Sun Blade X8400 サーバーモジュールがすべて管理対象サーバーグループとしてサポートされます。この節では、Sun Blade 8000 モジュールシステムの管理手順について説明します。

N1 System Manager では、Sun Blade 8000 シャーシ内の Sun Blade X8400 サーバーモジュールがすべて管理対象サーバーグループとしてサポートされます。

Sun Blade 8000 シャーシには `cmm-chassisID` 形式の名前が割り当てられます。ここで `chassisID` はシャーシの識別子です。この識別子は工場出荷時に割り当てられます。

N1 System Manager を使用して、シャーシ内の Sun Blade X8400 サーバーモジュールを検出および管理できます。

N1 System Manager は、Sun Blade 8000 シャーシの検出と管理には使用できません。

シャーシグループの操作の制約

N1 System Manager を使用して、シャーシ内の Sun Blade X8400 サーバーモジュールのグループを、『Sun N1 System Manager 1.3 検出および管理マニュアル』の第 5 章「サーバーおよびサーバーグループの管理」の説明と同じように、サーバーのグループとして管理できます。次の操作を除くすべての操作をグループに対して行うことができます。

- ブレードの `guid` (UUID) の変更は許可されていません。SP ベースの検出で検出された Sun Blade X8400 サーバーモジュールには、`set server` コマンドと `guid` サブコマンド、または `load guidconfig` コマンドを使用できません。
- 論理サーバーグループに接頭辞 `cmm-` を使用できません。`cmm-` 接頭辞は Sun Blade 8000 モジュールシステムのグループ用に予約されています。
- シャーシサーバーグループの名前は変更できません。
- `add group` または `remove group` コマンドでシャーシサーバーグループのメンバーを変更できません。シャーシサーバーグループのメンバーの追加または削除は許可されていません。
- `delete group` コマンドを使用したシャーシサーバーグループの削除は許可されていません。

Sun Blade X8400 サーバーモジュールの ILOM Web GUI の起動

この節では、N1 System Manager ブラウザインタフェースから Sun Blade 8000 モジュールシステムを管理できる ILOM Web GUI を起動する方法について説明します。

▼ ILOM Web GUI を起動する

始める前に 挿入されている Sun Blade X8400 サーバーモジュールが検出されている必要があります。

SC の完全な URL と SC 上のアカウントのログインとパスワードを知っている必要があります。デフォルトでは、16 ページの「Sun Blade 8000 モジュールシステムの設定」で設定した CMM の IP アドレスを入力できます。

- 1 **N1 System Manager** ブラウザインタフェースの「システムダッシュボード」で、「アクション」一覧から「ILOM のウェブユーザーインタフェースの起動」オプションを選択します。
- 2 必要に応じて URL を編集します。

ILOM Web GUI をはじめて起動するときは、SC の ILOM Web GUI の URL を入力するプロンプトが表示されます。その後、ILOM Web GUI を起動するときは、以前に入力した URL を確認するように求められます。

Sun Blade X8400 サーバーモジュールの移動と交換

この節では、Sun Blade 8000 シャーシ内で Sun Blade X8400 サーバーモジュールを移動する手順と Sun Blade 8000 シャーシ内の Sun Blade X8400 サーバーモジュールを交換する手順について説明します。

Sun Blade X8400 サーバーモジュールの移動と交換については、Sun Blade 8000 モジュールシステムのハードウェアのマニュアルを参照してください。ネットワークブートリストに関連するトラブルシューティング情報については、『Sun N1 System Manager 1.3.1 Troubleshooting Guide』の「Troubleshooting Guidelines and Logs」を参照してください。

▼ 1 つの Sun Blade 8000 シャーシから別のシャーシに Sun Blade X8400 サーバーモジュールを移動する

始める前に 移動する Sun Blade X8400 サーバーモジュールが検出されている必要があります。

- 1 移動する **Sun Blade X8400** サーバーモジュールの **ILOM Web GUI** を開きます。
詳細は、『Sun N1 System Manager 1.3 検出および管理マニュアル』の「管理対象サーバーの Sun ILOM Web GUI への接続」を参照してください。
- 2 **Sun Blade X8400** サーバーモジュールを安全に取り出す準備を行います。
詳細は、Sun Blade 8000 モジュールシステムのマニュアルを参照してください。

- 3 **Sun Blade X8400** サーバーモジュールを移動先の **Sun Blade 8000** シャーシまで物理的に移動します。
詳細は、Sun Blade 8000 モジュールシステムのマニュアルを参照してください。
- 4 `set server` コマンドと `refresh` サブコマンドを使用して **Sun Blade X8400** サーバーモジュールを新しい **Sun Blade 8000** シャーシに登録します。
この操作は、ブラウザインタフェースで Sun Blade X8400 サーバーモジュールの「更新」アクションを選択することで行うこともできます。
- 5 ブラウザインタフェースで、**Sun Blade X8400** サーバーモジュールが新しい **Sun Blade 8000** シャーシに表示されることを確認します。

▼ 一部埋まっている **Sun Blade 8000** シャーシに **Sun Blade X8400** サーバーモジュールを追加する

- 1 **Sun Blade X8400** サーバーモジュールサーバーを、一部埋まっている追加先 **Sun Blade 8000** シャーシに物理的に追加します。
詳細は、Sun Blade 8000 モジュールシステムのマニュアルを参照してください。
- 2 新しい **Sun Blade X8400** サーバーモジュールを検出します。
詳細は、19 ページの「[Sun Blade 8000 モジュールシステム、および挿入されている Sun Blade X8400 サーバーモジュールの検出](#)」を参照してください。
- 3 ブラウザインタフェースで、**Sun Blade X8400** サーバーモジュールが新しい **Sun Blade 8000** シャーシに表示されることを確認します。

▼ **Sun Blade X8400** サーバーモジュールを **Sun Blade 8000** シャーシから取り出し、**N1 System Manager** から削除する

- 1 移動する **Sun Blade X8400** サーバーモジュールの **ILOM Web GUI** を開きます。
詳細は、『[Sun N1 System Manager 1.3 検出および管理マニュアル](#)』の「[管理対象サーバーの Sun ILOM Web GUI への接続](#)」を参照してください。
- 2 **Sun Blade X8400** サーバーモジュールを安全に取り出す準備を行います。
詳細は、Sun Blade 8000 モジュールシステムのマニュアルを参照してください。
- 3 **Sun Blade X8400** サーバーモジュール名を指定して `delete server` コマンドを実行して、**Sun Blade X8400** サーバーモジュールを **N1 System Manager** から削除します。
詳細は、『[Sun N1 System Manager 1.3 コマンド行リファレンスマニュアル](#)』の「`delete server`」を参照してください。

Sun Blade 8000 シャーシ内の Sun Blade X8400 サーバーモジュールのプロビジョニング

この章では、N1 System Manager を使用して、Sun Blade 8000 モジュールシステム内の Sun Blade X8400 サーバーモジュールにオペレーティングシステムやファームウェアをプロビジョニングする方法について説明します。

N1 System Manager を使用した、サポートされているほかのハードウェアへのオペレーティングシステムやファームウェアのプロビジョニングについては、『Sun N1 System Manager 1.3 オペレーティングシステムプロビジョニングガイド』を参照してください。

管理サーバーまたは管理対象サーバーで実行できるオペレーティングシステムの一覧については、37 ページの「サポートされているハードウェアとオペレーティングシステム」を参照してください。

単一の Sun Blade X8400 サーバーモジュールへのオペレーティングシステムの配備

OS のプロビジョニングの仕組みは、『Sun N1 System Manager 1.3 オペレーティングシステムプロビジョニングガイド』で説明しています。この節では、このバージョンの N1 System Manager の Sun Blade X8400 サーバーモジュールに対するプロビジョニングがどのように変更されているかについて説明します。

サポートされている UNIX ベースのオペレーティングシステムを配備するときは、配備時に設定するネットワークインタフェースを指定できます。指定するには、設定するデバイスの物理ポート名または設定するデバイスの論理デバイス名を指定します。コマンド行で `bootnetworkdevice` オプションまたは `networkdevice` オプションを使用します。これらのオプションについては、『Sun N1 System Manager 1.3 コマンド行リファレンスマニュアル』の「load server」を参照してください。

Microsoft Windows をプロビジョニングするときは、論理デバイス名または物理ポート名を指定できません。OS は、管理対象サーバーから報告された最初のネットワークインタフェースにプロビジョニングされます。

ネットワークインタフェースの対応表

N1 System Manager の物理デバイス名とネットワークデバイス名については、[25 ページ](#)の「[Sun Blade X8400 サーバモジュールの詳細を表示する](#)」で説明しています。Sun Blade 8000 モジュールシステムの要素に有効な値を次の表に示します。

注-物理ネットワークデバイス名と論理ネットワークデバイス名は大文字と小文字が区別されます。

表 3-1 N1 System Manager で使用できる物理ネットワークデバイス名

物理ネットワークデバイス名	説明
NEM0/F0	Network Expansion Module 0
NEM0/F1	Network Expansion Module 0
NEM1/F0	Network Expansion Module 1
NEM1/F1	Network Expansion Module 1
NEM2/F0	Network Expansion Module 2
NEM2/F1	Network Expansion Module 2
NEM3/F0	Network Expansion Module 3
NEM3/F1	Network Expansion Module 3
EMa/F0	PCI Express Module
EMa/F1	PCI Express Module
EMb/F0	PCI Express Module
EMb/F1	PCI Express Module

表 3-2 N1 System Manager で使用できる論理デバイス名

論理デバイス名	実際の名前
eth0 ~ eth11 (Linux)	ネットワークインタフェースカード 0 ~ 11
e1000g0 ~ e1000g11	-

プロビジョニングされた OS では、PCI バスの検索順序に基づいて、eth3 などの論理ネットワークインタフェース名が、物理ネットワークポートに昇順で割り当てられます。ブラウザインタフェースの「サーバーの詳細」ページの「ネットワークブート可能なデバイス」セクションに、ネットワークポートが PCI の検索順序で表示されます。

ブート一覧の特定のエントリの論理インタフェース名を推定するには、「ブート可能なデバイス」一覧で 0 を基準としたインデックスを確認します。一覧内の最初のデバイスはインデックスが 0 で、2 番目のデバイスはインデックスが 1 です。インデックスを確認したら、プロビジョニングする OS の論理インタフェース名接頭辞を前に付けます。したがって、0 から始まる一覧内の n 番目のエントリは、Linux の場合は `ethN` に対応し、Solaris OS の場合は `e1000gN` に対応します。

▼ サポートされている Solaris OS または Linux ディストリビューションを Sun Blade X8400 サーバーモジュールにプロビジョニングする

ここでは、Red Hat Enterprise Linux AS 4 Update 3 オペレーティングシステムを Sun Blade X8400 サーバーモジュールにプロビジョニングする手順を示します。プロビジョニングについては、『Sun N1 System Manager 1.3 オペレーティングシステムプロビジョニングガイド』を参照してください。

Red Hat Enterprise Linux AS 4 Update 3 オペレーティングシステムは、Sun Blade X8400 サーバーモジュールだけでサポートされています。このオペレーティングシステムをほかのハードウェアにプロビジョニングすることはできません。

始める前に SP ベースの検出で Sun Blade X8400 サーバーモジュールを検出する必要があります。

- 1 配備する OS について、『Sun N1 System Manager 1.3 オペレーティングシステムプロビジョニングガイド』の第 2 章「UNIX オペレーティングシステムのプロビジョニング」に示す手順に従います。
- 2 Sun Blade X8400 サーバーモジュールに OS プロファイルをロードするには、次のコマンドを入力します。

```
N1-ok> load server server-name osprofile profile-name bootip bootip networktype=static [bootnetworkdevice bootnetworkdevice][networkdevice networkdevice]
```

`bootnetworkdevice` と `networkdevice` には物理ネットワークデバイス名または論理ネットワークデバイス名を指定できます。

ほかのコマンド行オプションについては、『Sun N1 System Manager 1.3 コマンド行リファレンスマニュアル』の「load server」を参照してください。

物理インタフェース名は、プロビジョニングするサーバーがすべて Sun Blade 8000 モジュールシステムに含まれる場合にのみ使用できます。複数の種類のサーバーから構成されるサーバーのグループには、物理デバイス名は使用できません。

- `bootnetworkdevice` と `networkdevice` の各オプションを指定しなかった場合
N1 System Manager では、前述の物理デバイス名と論理デバイス名の対応表に従って、Sun Blade X8400 サーバーモジュールによって報告された最初のネットワークブートデバイスに対応する論理インタフェース名が選択されます。

- `bootnetworkdevice` または `networkdevice`、あるいはその両方のオプションに物理インタフェース名を指定した場合
N1 System Manager では、前述の物理デバイス名と論理デバイス名の対応表に従って、Sun Blade X8400 サーバーモジュールによって報告された、対応する論理インタフェース名が選択されます。
- `bootnetworkdevice` または `networkdevice`、あるいはその両方のオプションに論理デバイス名を指定した場合
N1 System Manager によって、前述の物理デバイス名と論理デバイス名の対応表に従って、Sun Blade X8400 サーバーモジュールによって報告された、対応する物理インタフェース名が選択されます。

注 - 関連する Sun Blade X8400 サーバーモジュールをリセットせずに NEM モジュールまたは EM モジュールがホットプラグされた場合は、N1 System Manager のネットワークデバイス一覧が最新のものではない可能性があります。この場合は、論理インタフェースの対応が変更された可能性があります。ネットワークデバイス一覧を更新するには、次の手順に従います。

- a. プロビジョニング対象のすべての Sun Blade X8400 サーバーモジュールで `reset server` コマンドを実行します。
- b. プロビジョニング対象のすべての Sun Blade X8400 サーバーモジュールで、`refresh` サブコマンドを指定した `set server` コマンドを実行します。

物理インタフェース名を指定する場合は、この手順は不要です。Sun Blade X8400 サーバーモジュールのホットプラグについては、『Sun N1 System Manager 1.3.1 Troubleshooting Guide』の「Hot-Plugging Sun Blade 8000 Chassis Modules」を参照してください。

オペレーティングシステムをサーバーのグループにプロビジョニングするには、グループ名を指定した `load group` コマンドを使用します。サーバーのグループについては、『Sun N1 System Manager 1.3 検出および管理マニュアル』の第 5 章「サーバーおよびサーバーグループの管理」を参照してください。

Sun Blade X8400 サーバーモジュールへの Microsoft Windows のプロビジョニング

この節では、Sun Blade X8400 サーバーモジュールに Microsoft Windows オペレーティングシステムをプロビジョニングする方法について説明します。

注 - N1 System Manager では Windows オペレーティングシステムをプロビジョニングできませんが、Windows の OS 監視機能や更新機能はありません。

▼ Sun Blade X8400 サーバーモジュールに Microsoft Windows をプロビジョニングする

始める前に Microsoft Windows を Sun Blade X8400 サーバーモジュールにプロビジョニングするには、モジュールが SP ベースの検出で検出されている必要があります。サーバーを手動で検出する必要はありません。SP ベースの検出については、『Sun N1 System Manager 1.3 検出および管理マニュアル』の「SP ベースの検出」を参照してください。

Microsoft Windows をプロビジョニングするときは、論理デバイス名または物理ポート名を指定できません。OS は、管理対象サーバーから報告された最初のネットワークインタフェースにプロビジョニングされます。

- 1 『Sun N1 System Manager 1.3 オペレーティングシステムプロビジョニングガイド』の第 3 章「Windows オペレーティングシステムのプロビジョニング」に示す手順に従います。
- 2 『Sun N1 System Manager 1.3 オペレーティングシステムプロビジョニングガイド』の「Windows OS のプロビジョニングに関する問題」に示す手順に従って、インタフェースの順序を手動で変更します。

Windows OS を Sun Blade X8400 サーバーモジュールにプロビジョニングするときは、デフォルトで Nem0 インタフェースが使用されます。

Windows OS が Sun Blade X8400 サーバーモジュールにプロビジョニングされたあとに確立される LAN 接続に関する詳細情報が、ブラウザインタフェースの「ネットワーク接続」に表示されます。

◆ ◆ ◆ 第 4 章

N1 System Manager のその他の変更点

この章では、Sun Blade 8000 モジュールシステムのサポート以外の N1 System Manager の機能とマニュアルの変更点について説明します。

このリリースの N1 System Manager では、オンラインヘルプは更新されていません。この章では、オンラインヘルプで説明されている機能の、あまり重要でない変更点についても説明します。

サポートされているハードウェアとオペレーティングシステム

この節では、このリリースの N1 System Manager でサポートされているハードウェアについて説明します。

管理サーバーの要件

N1 System Manager で管理サーバーのハードウェアとオペレーティングシステムの要件を次の表に示します。



注意 - N1 System Manager 管理サーバーは N1 System Manager ソフトウェア専用になります。管理サーバーにほかのアプリケーションをインストールしないでください。管理サーバーは、N1 System Manager、Sun Management Center、Sun Control Station などのシステム管理ソフトウェアや、そのほかの管理システムでは管理できません。

表 4-1 管理サーバーのディスク容量と RAM の要件

ディスク容量	RAM
すべての管理サーバーで 72G バイト以上	すべての管理サーバーで 4G バイト以上

表 4-2 SPARC の管理サーバーでサポートされているハードウェアとオペレーティングシステム

タイプ	オペレーティングシステム
Netra™ 240、440	Solaris Version 10、64 ビット
	Solaris Version 10 Update 1、64 ビット
Sun Fire™ T1000、T2000	Solaris Version 10 HW2、64 ビット
	Solaris Version 10 Update 1、64 ビット
Sun Fire V210、V240、V440	Solaris Version 10、64 ビット
	Solaris Version 10 Update 1、64 ビット
Sun Fire V490	Solaris Version 10、64 ビット
	Solaris Version 10 Update 1、64 ビット

表 4-3 X86 と X64 の管理サーバーでサポートされているハードウェアとオペレーティングシステム

タイプ	オペレーティングシステム
Sun Fire X2100	Solaris Version 10 HW1、32 ビットおよび 64 ビット
	Solaris Version 10 Update 1、32 ビットおよび 64 ビット
	Solaris Version 10 Update 2、32 ビットおよび 64 ビット
	Red Hat Enterprise Linux 3.0 AS Update 6、32 ビットおよび 64 ビット
	Red Hat Enterprise Linux 4.0 AS Update 2、32 ビットおよび 64 ビット
Sun Fire X4100 および X4200	Solaris x64 Version 10 HW1、64 ビット
	Solaris x64 Version 10 Update 1、64 ビット
	Solaris x64 Version 10 Update 2、64 ビット
	Red Hat Enterprise Linux 3.0 AS Update 5、32 ビットおよび 64 ビット
	Red Hat Enterprise Linux 4.0 AS Update 1 および Update 3、64 ビット

表 4-3 X86 と X64 の管理サーバーでサポートされているハードウェアとオペレーティングシステム (続き)

タイプ	オペレーティングシステム
Sun Fire V20z および V40z	Solaris x64 Version 10 HW1、64 ビット Solaris x64 Version 10 Update 1 および Update 2、64 ビット Red Hat Enterprise Linux 3.0 AS Update 2～4、32 ビットおよび 64 ビット、シングルコアのみ Red Hat Enterprise Linux 3.0 AS Update 5、32 ビットおよび 64 ビット Red Hat Enterprise Linux 4.0 AS Update 1、32 ビットおよび 64 ビット

プロビジョニングを行う OS ディストリビューションごとに 3.0G バイト以上を割り当てる必要があります。

- Solaris の管理サーバーでは、OS ディストリビューションは次の場所に保存されます。
 - Linux の OS ディストリビューションは /var/opt/SUNWscs/share/allstart
 - Solaris の OS ディストリビューションは /var/js
- Linux の管理サーバーでは、OS ディストリビューションは次の場所に保存されます。
 - Linux の OS ディストリビューションは /var/opt/sun/scs/share/allstart/
 - Solaris の OS ディストリビューションは /var/opt/sun/scs/share/allstart/jumpstart/

注-管理サーバーに選択したサーバーにネットワークインタフェースが2つだけある場合は、10/100 または 10/100/1000 の NIC を N1 System Manager にもう1つ設置することを検討してください。この第3のNICは、管理ネットワーク、プロビジョニングネットワーク、データネットワークを別々のネットワークインタフェースに割り当てることを可能にします。これによって管理作業が容易になります。このマニュアルで使用する図や構成例では、追加のNICが管理サーバーに設置されていると想定しています。

管理可能なサーバーの要件

N1 System Manager で管理可能なサーバーのハードウェアとオペレーティングシステムの要件を次の表に示します。

表 4-4 管理可能なサーバーのディスク容量と RAM の要件

ディスク容量	RAM
すべての管理可能なサーバーで 12G バイト以上	すべての管理可能なサーバーで 512M バイト以上、1G バイトを推奨

表 4-5 SPARC の管理可能なサーバーでサポートされているハードウェアとオペレーティングシステム

タイプ	プロビジョニング可能な OS
Sun Netra 240 および 440	Solaris 10 GA 以降 Solaris 9 Update 7 および Update 8
Sun Fire V210、V240、および V440	Solaris 10 GA 以降 Solaris 9 Update 7 および Update 8
Sun Fire V490	Solaris 9 9/05 Solaris 10 3/05
Sun Fire V890	Solaris 9 9/05 Solaris 10 3/05
Sun Fire T1000 および T2000	Solaris 10 HW2 以降

表 4-6 X86 と X64 の管理可能なサーバーでサポートされているハードウェアとオペレーティングシステム

タイプ	プロビジョニング可能な OS
Sun Blade X8400 Server Module	Solaris x64 Version 10 Update 2、64 ビット Red Hat Enterprise 4 AS Update 3 SUSE Linux Enterprise Server 9 SP3、64 ビット Windows 2003 SE、2003 EE 64 ビット Windows 2003 SE、2003 EE、SP1 32 ビット

表 4-6 X86 と X64 の管理可能なサーバーでサポートされているハードウェアとオペレーティングシステム (続き)

タイプ	プロビジョニング可能な OS
Sun Fire V20z および V40z	Solaris x64 Version 10 HW1、64 ビット Solaris x64 Version 10 Update 1、64 ビット Solaris 9 04/05 32 ビット Solaris 9 09/05 HW 32 ビット Solaris 9 09/05 32 ビット Red Hat Enterprise Linux 3.0 WS、ES、および AS、Update 1 ～ 4、32 ビットおよび 64 ビット、シングルコアのみ Red Hat Enterprise Linux 3.0 WS、ES、および AS、Update 5 ～ 6、32 ビットおよび 64 ビット Red Hat Enterprise Linux 4.0 WS、ES、および AS、32 ビット、シングルコアのみ Red Hat Enterprise Linux 4.0 WS、ES、および AS、Update 1、32 ビットおよび 64 ビット SUSE Linux Enterprise Server 9 SP1 および SP2、64 ビット MS Windows 2003 SE、2003 EE、2003 WE 32 ビットのみ Windows 2003 SE、2003 EE 64 ビットのみ Windows 2000S、2000AS 32 ビットのみ
Sun Fire X2100 および 8081A IPMI 1.5 Remote Management Card: パート番号: 371-0743	Solaris Version 10 HW1、32 ビットおよび 64 ビット Solaris Version 10 Update 1、32 ビットおよび 64 ビット Red Hat Enterprise Linux 3.0 WS、ES、および AS Update 6 以降、32 ビットおよび 64 ビット Red Hat Enterprise Linux 4.0 WS、ES、および AS Update 2、32 ビットおよび 64 ビット SUSE Linux Professional 9 SP3 以降、32 ビットおよび 64 ビット Windows 2003 SE、2003 EE、64 ビット Windows 2003 SE、2003 EE、SP1、32 ビット

表 4-6 X86 と X64 の管理可能なサーバーでサポートされているハードウェアとオペレーティングシステム (続き)

タイプ	プロビジョニング可能な OS
Sun Fire X4100 および X4200、Sun Fire X4100 M2 および Sun Fire X4200 M2 を含む	Solaris x64 Version 10 HW1、64 ビット
	Solaris x64 Version 10 Update 1、64 ビット
	Red Hat Enterprise Linux 3.0 WS、ES、および AS、Update 5 および Update 6、32 ビットおよび 64 ビット
	Red Hat Enterprise Linux 4.0 WS、ES、および AS、Update 1 および Update 2、64 ビット
	SUSE Linux Enterprise Server 9 SP1 ~ SP3、64 ビット
	Windows 2003 SE、2003 EE 64 ビット
Sun Fire X4500	Windows 2003 SE、2003 EE、SP1 32 ビット
	Solaris 10 Update 1、64 ビット
Sun Fire X4600 および Sun Fire X4600 M2	Solaris 10 Update 1、64 ビット
	Red Hat Enterprise Linux 4.0 WS、ES、および AS Update 3、64 ビット
	Windows 2003 SE、SP1、32 ビット

注 - Windows オペレーティングシステムを実行する管理対象サーバーの OS 検出、OS 監視、およびソフトウェア更新管理はサポートされていません。OS 検出については、『Sun N1 System Manager 1.3 検出および管理マニュアル』の第 4 章「管理可能なサーバーの検出」を参照してください。OS 監視については、『Sun N1 System Manager 1.3 検出および管理マニュアル』の第 6 章「サーバーおよびサーバーグループの監視」を参照してください。

N1 System Manager 1.3 からのアップグレード

N1 System Manager 1.3 から N1 System Manager 1.3.1 へのアップグレード手順は、N1 System Manager 1.2 から N1 System Manager 1.3 へのアップグレード手順と同じです。詳細は、『Sun N1 System Manager 1.3 インストールおよび構成ガイド』の「Sun N1 System Manager 1.3 へのアップグレード」を参照してください。

N1 System Manager 1.3 のマニュアルの変更点

この節では、製品の旧リリース時点での N1 System Manager のマニュアルの変更と訂正、およびこのリリースでの変更と訂正について説明します。

Solaris 10 OS の N1 Grid Engine ホストへのプロビジョニング

N1 Grid Engine の計算ホストに指定されている管理対象サーバーに Solaris 10 OS を配備したあと、N1 Grid Engine のマスターサーバーで Red Hat Linux version 4 のサポートされているディストリビューションが実行されている場合は、次の手順に従います。

この回避策は、管理サーバーでどのオペレーティングシステムが実行されている場合にも必要です。

▼ N1 Grid Engine ホストに Solaris 10 OS をプロビジョニングする

- 『Sun N1 System Manager 1.3 オペレーティングシステムプロビジョニングガイド』の第2章「UNIX オペレーティングシステムのプロビジョニング」および『Sun N1 System Manager 1.3 Grid Engine 監視についてのヘルプ』の第1章「N1 Grid Engine 向け N1SM オンラインヘルプ」に示す標準のプロビジョニング手順に従います。
- Solaris 10 OS をプロビジョニングした、計算ホストに指定されているサーバーで、`/etc/default/nfs` ファイルを次のように編集します。
NFS_CLIENT_VERSMAX を 4 ではなく 2 に設定します。
NFS_CLIENT_VERSMAX=2
- 次のコマンドを使用して NFS を再起動します。

```
# svcadm restart svc:/network/nfs/client:default
```

オンラインヘルプの更新と訂正

このリリースの N1 System Manager では、オンラインヘルプは更新されていません。このリリースのオンラインヘルプでは、機能に対するあまり重要ではない追加事項については説明されていません。したがってこの節では、それらの追加事項について説明しません。

N1 System Manager での Sun Blade X8400 サーバーモジュールの有効なハードウェアモデル名は X8400 です。

N1 System Manager での Sun Fire X4000 シリーズのサーバーの有効なハードウェアモデル名は次のとおりです。

X4100M2	Sun Fire X4100 M2 サーバー
X4200M2	Sun Fire X4200 M2 サーバー
X4600M2	Sun Fire X4600 M2 サーバー
X4500	Sun Fire X4500 サーバー

Sun Blade X8400 サーバーモジュールのプロビジョニングが可能になりました。この機能については、オンラインヘルプで説明していません。詳細は、[第3章](#)を参照してください。

索引

C

CMM

- 説明, 13
- デフォルトの資格, 15-16
- ファームウェアの要件, 15

I

- IP アドレス, Sun Blade 8000 モジュールシステムへの割り当て, 16-17

L

- Linux OS, サポートされているバージョン, 14-15

S

- Solaris OS, サポートされているバージョン, 14-15
- Sun Blade 8000 モジュールシステム
 - 「シャーシサーバーグループ」も参照
 - 検出, 19-21
 - シャーシサーバーグループの指定, 20
 - シャーシサーバーグループの表示, 22-23
 - シャーシ内のブレードの表示, 23-24
 - シャーシの説明, 13
 - 設定, 16-17
 - デフォルトの資格, 15-16
 - ファームウェア, 15
 - ブレードの詳細の表示, 25-27
 - モジュールシステムの説明, 14

Sun Blade X8400 サーバーモジュール

- オペレーティングシステム, 14-15
- 検出, 19-21
- 検出と既存のグループへの追加, 20-21
- シャーシ内のブレードの表示, 23-24
- 設定, 16-17
- 説明, 13
- デフォルトの資格, 15-16

W

- Windows OS, サポートされているバージョン, 14-15

お

- オペレーティングシステム
 - 管理可能なサーバー, 39
 - 管理サーバーの要件
 - 「Solaris OS, Linux OS」も参照
 - サーバーの要件, 14-15

か

概要

- Sun Blade 8000 モジュールシステム, 13
- Sun Blade X8400 サーバーモジュール, 13
- 監視, 22-27
- Sun Blade X8400 サーバーモジュールの詳細の表示, 25-27
- シャーシサーバーグループ内のブレードの表示, 23-24

監視 (続き)

シャールサーバーグループの表示, 22-23

管理可能なサーバー, 要件, 39

管理サーバー, 要件, 37

け

ゲートウェイ, Sun Blade 8000 モジュールシステムへの割り当て, 16-17

検出

Sun Blade 8000 モジュールシステム, 19-21

Sun Blade X8400 サーバーモジュール, 19-21

こ

コマンド, 操作の制約, 27

さ

サーバーの要件

管理可能なサーバー, 39

管理サーバー, 37

ハードウェアとソフトウェア, 14-15

サーバーモジュール, 「Sun Blade X8400 サーバーモジュール」を参照

し

資格, 「CMM のデフォルト」を参照

シャール, 「Sun Blade 8000 モジュールシステム」を参照

シャール監視モジュール, 「CMM」を参照

シャールサーバーグループ

Sun Blade X8400 サーバーモジュールの詳細, 25-27

グループ内のブレードの表示, 23-24

検出, 20

説明, 13, 14

操作の制約, 27

表示, 22-23

せ

設定, Sun Blade 8000 モジュールシステム, 16-17

そ

操作の制約, 27

ソフトウェア, 要件, 14-15

ね

ネットマスク, Sun Blade 8000 モジュールシステムへの割り当て, 16-17

は

ハードウェア

管理可能なサーバーの要件, 39

管理サーバーの要件, 37

サーバーの要件, 14-15

ひ

表示

Sun Blade X8400 サーバーモジュールの詳細, 25-27

シャールサーバーグループ, 22-23

シャール内のブレード, 23-24

ふ

ファームウェア, 要件, 15

も

モジュールシステムの説明, 14

よ

要件

管理可能なサーバー, 39

要件 (続き)

管理サーバー, 37

ハードウェアとソフトウェア, 14-15

ファームウェア, 15

